

6/13/10 悪い報せが良い報せに変わる時 ルカによる福音書 7:36-50

今日の聖書の箇所には二人の人物が登場します。一人はパリサイ派のシモンという名の男性で、もう一人は皆から毛嫌いされている無名の女性です。シモンは律法に詳しい学者で、それらをしっかりと守っていることで知られています。彼はその町の有数な知識人で、経済的にも恵まれている、自他ともに許す町の名士です。

一方名もない女性は、「罪深い女」という表現からも分かるように、自分の身体を売って生きている娼婦です。彼女は人々から蔑まれ、汚らわしい存在として疎まれていた存在です。彼女自身、自分の存在の無意味さに打ちひしがれていたのです。

今日のエピソードは、主イエスがシモンの家に食事に招待されたことから始まります。突然罪の女が石膏の壺を持って家に入ってきます。驚く人々を尻目に、彼女は泣きながら石膏の壺に入った香油で主イエスの足を洗い始めます。

それを見てシモンは激怒します。彼の怒りは女性にではなく、イエスに向けて爆発します。この人は、汚れた女に触られることが彼自身を汚すということを知らないのか。家の主人の私をも汚すことになるのを知らないのか。

シモンの怒りを知った主イエスは彼に語りかけます。二人の人が金貸しから金を借りた。一人は500万円、もう一人は一千万円だった。とても返せる額ではない。そこでこの優しい金貸しは、二人の借金を帳消しにしてあげた。さあ、この二人のうちどちらが金貸しにより深い感謝を捧げるだろうか。シモンは答えます。「勿論、一千万円を帳消しにしてもらった人です。」

この譬えを通して主イエスは、シモンが最も知りたくないことを彼の目の前に突きつけたのです。シモンよ、あなたはあなたの名声と道徳性に自信を持っているが故に、赦しなしに人間は生きていけないことに気づいていない。あなたがこの女性を赦すことができないのはそのためだ。

シモン、あなたに比べてこの女性は、赦しなくして一瞬も生きることができないことを知っている。彼女の悔い改めは純粋であり、疑いの余地がない。それが故に彼女は赦され、新しく生きる可能性が与えられている。

シモンという名前に、私達一人一人の名前をかぶせてみるとこの主イエスの言葉は俄然迫力を持って私達に迫ってきます。私達は赦されるべき存在だということを認めたくありません。しかしそのような自己正当化の態度には嘘とごまかしが常に潜んでいます。

私はデューク大学の学生だった頃、一度エンパイアーステートビルの上に連れていってもらったことがあります。そこから見た地上の車も人も豆粒のように見えました。下から見ると高く見えた回りの高層ビルも、私の立っていた所からは随分小さく見えました。次の日、私はラグアーディアからノースカロライナに飛びました。窓からあのエンパイアーステートビルが見えました。空から見たエンパイアーステートビルは実に小さく、一瞬のうちに私の視界から消えていきました。

私達の正しさは、あの空から見たエンパイアーステートビルのようなものです。主イエスの視座から見た時、私達の正しさは、実に小さく、一瞬のうちに消え去るようなものです。主イエスは私達の正しさに潜む虚偽や傲慢を赤裸々に洗い出されます。それは私達には具合の悪い、悪い報せです。

しかし、自分の中に救う傲慢や自己欺瞞に気づき、悔い改める時、完全な赦しが与えられる。これが主イエスの良き報せです。自分自身の中にあるドロドロしたものを見据えつつ主イエスを仰ぎ見る時、悪しき報せは良き報せに変わるのです。

もうひとつこのエピソードで重要なことがあります。ルカによる福音書は、シモンが最後まで自分の正しさに固執したのか、それとも悔い改めたのか、明らかにしていません。それは、結論は読者がつけなさい、ということなのです。つまり、シモンは私であり、あなたなのです。私達は毎日の生活の中で私達自身の結論を書かなければならないのです。

主イエスは私達が正しい結論を書くように説得し続けます。愛は強制しません。説得あるのみです。主イエスは私達を諦めることはなさない。私達に絶望されることはない。決してない。この真実こそが良き報せそのものです。

